

Wood City あいち 2050

<概要版>

～木材利用により健全で活力のある^{もり}森林づくりと^{まち}都市づくりを！～



木材利用にはこんな良いことがあります！

木材利用は地球環境の保全に貢献します

SDGsの達成に貢献する建築物への木材利用

2015年に国連において採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴールが設定されています。



SDGsの達成には、日本の国土の3分の2を占める森林を健全に保全し、森林が持つ災害防止機能や環境保全機能等の多面的機能を発揮させることが重要です。

木材利用の推進により、林業・木材産業の振興を図ることで森林の整備が進み、森林の健全性を維持・増進させることができます。

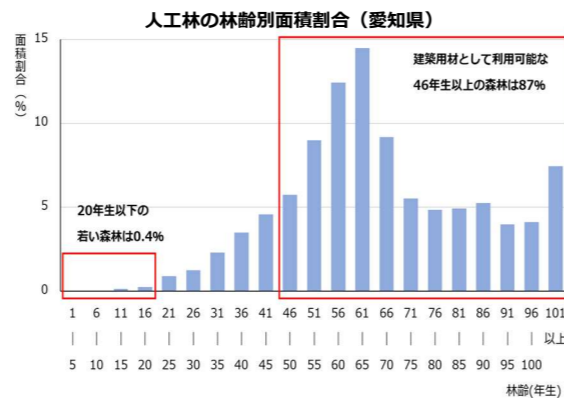
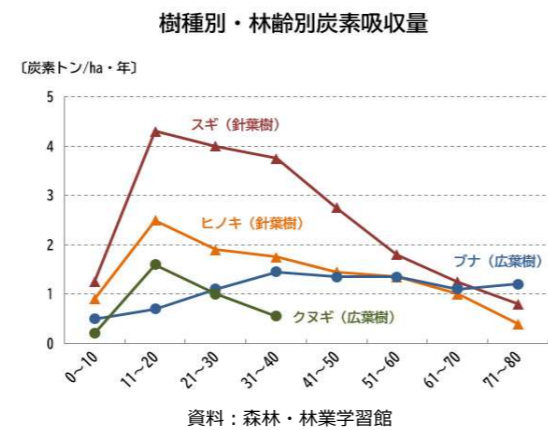


資料：令和3年度 森林・林業白書

「2050年カーボンニュートラル」の実現にも貢献

政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。これを実現するためには、CO₂の排出を削減するとともに、CO₂の吸収源を確保することが重要です。

森林は成長に伴ってCO₂を吸収しており、その量は国内におけるCO₂吸収量の8割以上を担っています。ところが、日本では人工林が十分に伐って利用されておらず、CO₂吸収量が旺盛な若い森林へ更新できずに高齢化が進み、CO₂吸収量は減少傾向にあります。このため、木材利用を通して森林整備を支援し、林齢構成の改善を図ることが重要となっています。



木材は人に優しく、生活環境を改善します

木材の香りには血圧を低下させ、体をリラックスさせる効果があります

血圧はストレスがかかると上昇すると言われていますが、スギのチップの香りを嗅ぐことによって血圧が低下し、体がリラックスできることがわかりました。

内装材に木材を活用することで、リラックス・癒やし効果が得られることが確認されています。



カゴメビル (名古屋市中区) 「あいちの木材利用施設事例集」より抜粋

木材は衝撃力を緩和する効果があり、安全性を高める材料です

木材は多孔質の組織構造をしており、衝撃力が加わると組織がつぶれたり、たわんでまた元に戻る性質を持っていることから、木には衝撃力を緩和する効果があるといえます。

このため、床面に木材を活用することで、居室や共有スペースといった施設内での事故防止に役立つと考えられます。



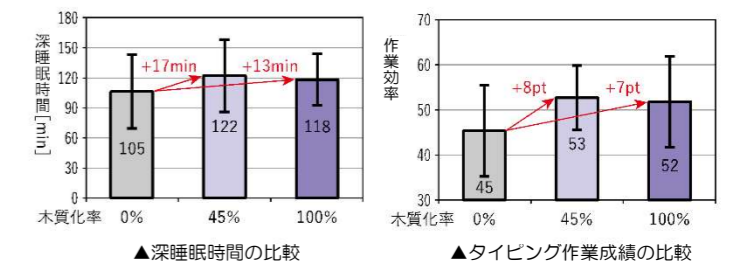
瀬戸市立にじの丘学園 (瀬戸市中山町) 「あいちの木材利用施設事例集」より抜粋

睡眠の質が向上し、日中の作業効率も上昇します

内装に木材を利用していない部屋と比べて、内装を木質化した部屋で過ごした場合には、深睡眠時間が長くなる傾向が確認されました。

また、同様に内装を木質化した部屋で過ごした場合は、日中の作業生産性が向上することも確認されました。

積極的に木材を生活に取り入れることで、生活習慣の改善と仕事や勉強の生産性向上に期待できます。



部屋内観	木質化 0%	木質化 45%	木質化 100%
天井	ビニルクロス	ビニルクロス	ヒノキ
壁	ビニルクロス	ビニルクロス	ヒノキ (一部)
床	複合フローリング	ヒノキ	ヒノキ

出典：令和3年版「内装木質化した建物事例とその効果」(公財)日本住宅・木材技術センター

2050年の愛知県が目指す木材利用の姿

※見出し窓の番号は、左記の①～④の目指す姿の項目に対応しています

- ① すべての県民が木材の良さを享受でき、積極的に森林と関わっていく社会
- ② 民間企業が積極的に木材利用を進める社会
- ③ 森林の成長量に見合った県産木材が生産されている持続可能な社会
- ④ 木材に関わる事業者全体で効率的なサプライチェーンが確立されている社会

建築物の木造・S造・RC造の
ベストミックスが確立

③④ICTによる
林業機械の遠隔操作

①②木材に関わる全ての
関係者が適正な利益を享受

②オフィスの木造・木質化
による企業価値の向上

①校舎の木造・
木質化が一般化

①木の良さを享受できる暮らし

④効率的なサプライ
チェーンの確立

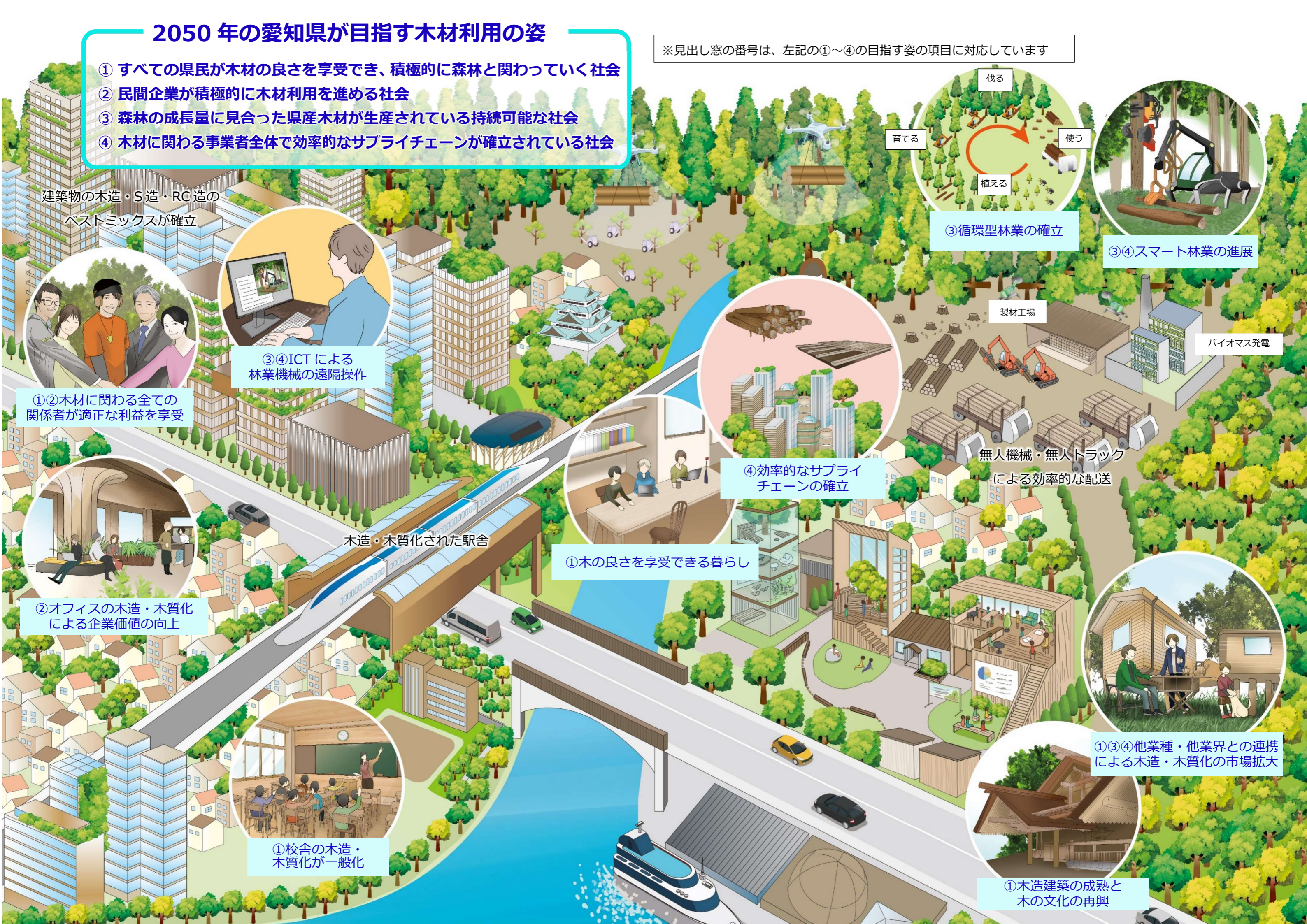
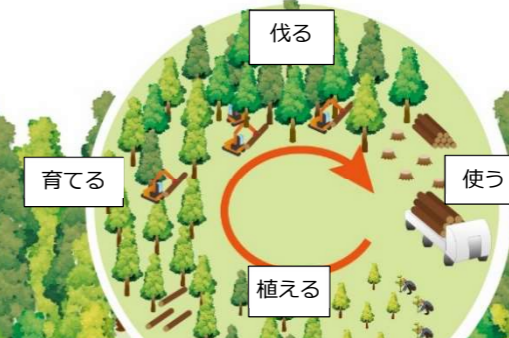
③循環型林業の確立

③④スマート林業の進展

無人機械・無人トラック
による効率的な配送

①③④他業種・他業界との連携
による木造・木質化の市場拡大

①木造建築の成熟と
木の文化の再興



目指す姿を達成するためのロードマップ

本県が木材利用を進めるにあたって指針となるロードマップを以下のとおり作成しました。

ロードマップについては短期、中期、長期の3つのフェーズで構成され、各課題に対応した施策を設定しています。

2023年~	2025年~	~2030年	~2040年	~2050年
短期：木材利用促進の基盤整備フェーズ			中期：木材利用の発展的展開フェーズ	長期：木材利用の普及・定着フェーズ
課題① 木材の持つ良さを広く認識してもらうための普及啓発活動				
(1) 木材利用のシンボルとなるような顕彰制度の整備		顕彰制度の継続		
(2) 消費者の志向に重点を置いた普及啓発活動		消費者志向重視の普及啓発活動の継続		
(3) 対象建築物ごとの客観的な評価方法に基づくエビデンスの活用		対象建築物ごとの評価方法・エビデンスの普及・浸透		
		(1) 「Wood Cityあいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討	モデルの認定	※長期の各取組は全ての課題に対応 (1) ESG投資からインパクト投資へ、成長産業としての林業・木材産業
		(2) 他業種・他業界との連携による木造・木質化の市場拡大		
		(3) 「サプライチェーン」から「バリューチェーン」への移行促進		
課題② 木材利用を促進させるインセンティブ制度の構築				
(1) 木材利用のシンボルとなるような顕彰制度の整備（再掲）		顕彰制度の継続		
(2) 消費者の志向に重点を置いた普及啓発活動（再掲）		消費者志向重視の普及啓発活動の継続		
		(1) 「Wood Cityあいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討（再掲）	モデルの認定	(2) 木造建築の熟成期と日本の木の文化の再興
課題③ 木造建築を担う設計・施工業者やコーディネーターの確保				
(4) 木材利用の機運醸成のための建築業界と木材産業界の連携		連携の深化		
(5) 木造・木質化のノウハウ・知見の向上を通じた専門人材の育成		人材育成の継続		
(6) 中大規模建築物等に対応した木材の標準規格づくりと普及啓発		普及啓発の継続		
(1) 木材利用のシンボルとなるような顕彰制度の整備（再掲）		顕彰制度の継続		
		(1) 「Wood Cityあいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討（再掲）	モデルの認定	(3) 愛知県の2050年以降の社会を見据えた木材利用の持続的発展
課題④ 木材需給バランスの最適化を目指した森林資源（大径材）の活用				
(7) 寸法精度・品質の統一された信頼性ある木材の流通体制の確立		寸法・品質の統一された木材の一般化		
(8) 県産木材の大径化を踏まえた構築材等への活用促進		大径材利用の一般化		
(4) 木材利用の機運醸成のための建築業界と木材産業界の連携（再掲）		連携の深化		
		(1) 「Wood Cityあいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討（再掲）	モデルの認定	(3) 愛知県の2050年以降の社会を見据えた木材利用の持続的発展
		(2) 他業種・他業界との連携による木造・木質化の市場拡大（再掲）		
課題⑤ 木材に関わる新たなサプライチェーンの構築				
(9) 木材利用に関わる「サプライチェーンマネジメント」体制の整備		(3) 「サプライチェーン」から「バリューチェーン」への移行促進（再掲）		
(4) 木材利用の機運醸成のための建築業界と木材産業界の連携（再掲）		連携の深化		
(6) 中大規模建築物等に対応した木材の標準規格づくりと普及啓発（再掲）		普及啓発の継続		
(7) 寸法精度・品質の統一された信頼性ある木材の流通体制の確立（再掲）		寸法・品質の統一された木材の一般化		
		(1) 「Wood Cityあいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討（再掲）	モデルの認定	

ロードマップに基づく具体的施策

短期（～2030年）：木材利用促進の基盤整備フェーズ（9施策）

2030年までの期間については木材利用促進の基盤整備を図る短期フェーズとして設定します。この期間中には、木材利用に関する現在の各課題に向けて、以下の9つの取組を中心に進めていきます。

施策① 木材利用のシンボルとなるような顕彰制度の整備

施策② 消費者の志向に重点を置いた普及啓発活動

施策③ 対象建築物ごとの客観的な評価方法に基づくエビデンスの活用

民間事業者に木造・木質化を働きかけていくため、業種・業態ごとに木材を使うメリット等を「見える化」して示していきます。

施策④ 木材利用の機運醸成のための建築業界と木材産業界の連携

設計・施工者と木材産業者等の関係事業者が連携して安定的な木材供給を可能とするとともに、施主に対して木造・木質化の提案を的確に行える体制づくりを促進します。

施策⑤ 木造・木質化のノウハウ・知見の向上を通じた専門人材の育成

施主の利益につながる多様な提案ができるように、木造建築の専門人材育成を促進する講座等を展開していきます。

施策⑥ 中大規模建築物等に対応した木材の標準規格づくりと普及啓発

施策⑦ 寸法精度・品質の統一された信頼性ある木材の流通体制の確立

寸法・品質の担保となるJAS製品についての普及啓発活動等を展開します。

施策⑧ 県産木材の大径化を踏まえた横架材等への活用促進

高齢化が進む県内の森林資源の踏まえ、大径材の利用方法について検討を進めるとともに、梁や桁等の横架材への活用を促進します。

施策⑨ 木材利用に関わる「サプライチェーンマネジメント」体制の整備



中期（～2040年）：木材利用の発展的展開フェーズ（3施策）

中期においては、県内に様々な用途の施設、建物が木造・木質化され、そのメリットを全県民が享受し始めることが可能となる段階と考えられます。

2040年という時期はSDGsの達成目標年度の2030年から10年後というタイミングで、持続可能な社会構築の基盤が整っている状況が想定されます。持続可能な社会の中で、全県民にウェルビーイングをもたらす木材利用を深化するための発展的展開のフェーズと位置づけます。

施策①「Wood City あいち」モデルの要件設定とインセンティブの検討

施策② 他業種・他業界との連携による木造・木質化の市場拡大

施策③「サプライチェーン」から「バリューチェーン」への移行促進

長期（～2050年）：木材利用の普及・定着フェーズ（3施策）

2050年までの目標年に到達するロードマップ長期フェーズでは、県内で木材利用が普及・定着している状況になっていることが望まれ、そのために林業・木材産業の成長産業化を軌道に乗せて、基幹産業の一つとして定着させていくことを目的として、以下の3つの施策を進めていきます。

施策① ESG投資からインパクト投資へ、成長産業としての林業・木材産業

施策② 木造建築の成熟期と日本の木の文化の再興

施策③ 愛知県の2050年以降の社会を見据えた木材利用の持続的発展

「Wood City あいち 2050」（全編）をぜひ御覧ください！

次の愛知県林務課のWebページ又は二次元コードから、「Wood City あいち 2050」（全編）がダウンロードできます。

<愛知県農林基盤局林務部林務課 Web ページ>

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/rinmu/woodcity.html>



Wood City あいち 2050 概要版

2023年3月策定

作成・発行 愛知県
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6884（ダイヤルイン）
農林基盤局林務部林務課あいちの木活用推進室
ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/rinmu/>